



子と親の相互作用

保育所に我が子が通い始める時期。その時期に、「我が子に負けていけない」という前向きな気持ちに母になることが多い。

一日の多くを我が子の育ちを支えるために使ってきたひとりの大人の気持ちが、社会の方へより向かう時期でもある。保育所に通い始めた我が子が、保育所で起こった出来事を母に語る。ちょっとおませと感じつつ、微笑ましくその語りを聞く。いつの間に、そんなことを語るようになったのだろう。辛そうなそぶりも見せず、保育所に通う我が子。その子の存在が就労への意欲を高める。

人は、他の人との相互関係の中で生きている。他者の「言葉」「振る舞い」「表情」などの刺激を受けて、人は自己に一定の影響を受ける。そして、影響を受けた自己が示す「言葉」「振る舞い」「表情」によって、他者は影響を受ける。子と母との間でも、両者は相互に影響を受ける。

子が母に与えた影響

以前、調査研究の一環として、DV被害を受けて未婚の母となったひとり親家庭の母とお話をすることがあった。ひとりの女性が、子として生まれ、少女時代を過ごし、大人になり、異性と出会い、恋をして、母となる。共に生活する中でパートナーとの間にできてきた心の溝の中に、DVという行為が芽を出し激しさを増していく。子を守るために、パートナーとの関係を解消したいけれどなかなかできない。大変な犠牲を払ってようやく解消したけれど、生まれたばかりの子を育てながらひとり親家庭として生活していくことは容易ではない。

子を寝かしつけようと思って絵本を読み始めたけれど、自分の方が先に眠くなってしまふ。それでも、その子の寝顔がその母の心の支えとなる。熱を出して病院に駆け込む。パートナーとの関係を快く思っていなかった母の家族は、この母の子育てに協力的ではない。経済的にも苦しい。元のパートナーからは養育費を受けることができていない。八方ふさが

ひとり親家庭への支援につなぐ

りのなかで、孤独を強く感じる。母の味方はこの子だけ。

この子を育てるために働かなければと保育所を探し始める。仕事を見つけたら、保育所を探す。「仕事につくことができれば保育所を利用できる」と感じたり、「保育所が見つければ仕事につけるのに」と矛盾を感じることもあった。DV被害の影響からか、心が不安定になることもある。

ハローワークの紹介で、ようやくパートタイムの仕事を見つけ、保育所利用も可能となった。それでも、やっていけるだろうかと不安になる。保育所に我が子は馴染むだろうか。おそろおそろ進んでいく。大丈夫だろうか……。

我が子が保育所に通い始めると、最初は母のそばを離れようとしなかった我が子も少しずつ保育所に馴染み始める。保育所で起こったことを楽しそうに母に話すことも増えてきた。少しの寂しさとともに、子のたくましさを感じる。「我が子に負けていけない」。

ひとり親家庭の就労支援

一人の人である我が子の育ちが、その親の気持ちを前向きにさせる。子どもの育ちの早さを感じるとき、従前よりももっと就労への意欲を母が持つきっかけがもたらされる。我が子の成長を感じつつ、我が子に負けていけないという思いを持つ。ひとり親家庭の就労について考える上で、一般的に、就労を妨げる要因として子の存在が指摘される。しかし、保育所に溶け込めるように努めている我が子を感じて、「この子に負けないように自分も社会に出てこう」という気持ちになりやすいという点で、我が子の存在がひとり親家庭の就労に前向きな影響を持つことを感じる。そのことを就労支援で大切にしたい。子と親の相互作用を大切にしながら、それぞれの自立と幸せを願いながら。そしてそのことは、その周りで暮らす我々の気持ちへも影響を与える。先の例を話してくれたDV被害を受けた女性の語りを思い出すとき、私も「この母を見習いたい」と思う。そうした相互作用を大切にしたい社会をめざしたい。